

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表	
事業所名	太田教室
公表日	2025年 3月 20日
利用児童数	25名
回収数	22名

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	19				毎回1人の子どもに対して委任の先生がついてくれて、手厚いフォロー。	今後も1対1の支援を継続していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18	1			特性があり、イヤーマフをすることもあるので、本人に聞いて付けてもらいたい。	リズムウォークの時にはご本人に確認するが、大丈夫との返事が多くご自分で必要と感じる時には使うこともある。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19				とても清潔で気持ちいい。	気持ちよくご利用してもらえるように終了後掃除をしっかり行っている。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22					
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22				学校に向けての加害に変化してきている。	就学後、ご本人がスムーズに小学校生活を楽しめるように支援をしていく。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	22					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	1			ご本人曰く固定化になっており、嫌と言っていた。	毎回違うものを取り入れるようにしているが、そう感じないよう工夫しながらプログラムを進めていく。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	14	4		4		
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21			1		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	5		4		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	22				毎回お迎えの時に丁寧に夏同内容を報告してくれる。連絡の一時も状況を記載してくれてありがたい。	あとで見返した時にもわかるように手早く記入している。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	2				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	3	6	10	相談、急に申し出にもかかわらず対応してくれて非常に助けられている。	
	19 こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	1		2		
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	1		5		
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	14	1		7	ブログはLITALICOを見ている。	インスタも更新していることを周知していなかったため、今後はそちらも見て頂けるように周知を行う。
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18			4			

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1		6	マニュアルについての説明はされているが、訓練が実施されているか分からない。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19			4	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22				
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	22				
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	21	1			本人は笑顔で通っていて親としても安心。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22				毎回楽しみに通っている。 毎回楽しみにしている。

事業所における自己評価結果

公表		事業所名				
公表		てらびあぼけっと太田教室				
事業所名		てらびあぼけっと太田教室				
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		広い空間で様々な療育に取り組むことが出来ている。	楽しくなりすぎて歯止めが利かなくならないように職員も注意をする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	1	基本的に1対1での支援になるので、適切。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		こどもが怪我をしやすい棚等の面の部分にクッション効果の折る素材で補強している。	危険と思われる箇所はその都度全職員で情報を共有して対策を考えるようにする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		広い空間でのびのびと体を動かせるようにしている。棚の角など危険と思われる箇所にはコーナガードを張って安全を保てるようにしている。	今後も常に清潔な空間、環境であるように努める。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		十分な個室を備えている。1人に対しての面積が広い。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	4	月1回支援会議を開き、業務改善に努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	3	朝会や会議の場で話をして活かせるようにしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	個人面談により。面談時に管理者との話のなかで改善した方がいいことを伝える。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		現時点では実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	会議の画を使って年に数回研修を取り入れ、情報の安比データが出来るようにしている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	1	努力している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	2	日々の状況。園での様子などを踏まえて作成するようにしている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	2	モニタリング時期にのっとり、定期的な見直しや計画の作成を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	ご家族に署名をもらう前に回覧、その後は個別のファイルの見やすい場所に挟んでいつでも確認が出来るようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		朝会や経過記録の記入などで確認が出来るようにしている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		個々の特性に応じてご家族と話し、ご本人の様子を実際に見たうえで無理のない内容で進めていけるようにしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	支援会議で行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		個々の発達状況に負わせるように工夫している。	ご利用児さまからの話でご家族が固定化されてしまうと感じている部分もあるので、注意して支援していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	状況に応じて小集団や集団でも取り組む内容を組み込んで行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		朝に必ず確認するようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	翌営業日に行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		日々記録している。誰が見ても分かるように記入している。	自分以外が見返しても分かるように記入するように繰り返し伝えている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	年に1回以上モニタリングを行う以外に必要なに応じて面談を行い、いつでも見直せる状態にしている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		園での様子が気になる場合や情報共有の必要がある時には園訪問を行って運家が取れるようにしている。	お互い都合がつかず、1回きりの訪問になってしまうこともあるので連絡は取るようにしたい。

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		各所からの要望や希望があれば訪問して担当者会議を開いている。	
	28	(28~30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			発達支援センターには定期的に訪問を行い、連携を取るようになっている。	今後も定期的に訪問を行い、連携を取っていく。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			本部の職員の訪問を依頼して、せらびーの様子を見てもらい指導してもらう機会を作っている。	ご指導いただいたことを活かした療育が出来るようになる。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			参加出来る機会がないので、参加したことはない。機会があればぜひ参加してみたいと思っている。	参加するきっかけを見つけていく。
	31	(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7		定期的に訪問をして話をするなかで連携を取る体制を取っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5		ほとんどのご利用児が遠路の併用をしている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		せらびーの一とや保護者の方との回wsで共通理解に努めている。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		仕事をしている方が多く、難しい部分が多いが提供できるように努力している。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	主に契約時に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1	保護者の方に納得していただいて作っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		同委の署名捺印を頂いている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		適宜実施。 必要がある場合には応じる体制を取っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7			開催をしたことがないので今後開催の検討をする。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		出来る限りの対応をするようになっている。	誰か1人だけの意見ではなく、保護者さまの考えも居れた対応が出来るようにしたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1	LITALOCO、インスタ等で発動内容を発信している。実際に使っている教材や活動の様子など実際の様子が分かりやすく伝わるようになっている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1	事業所内では鍵付きの棚で保管をし、事業所以外では個人情報を漏洩させないように会話にも十分注意するようになっている。	今後も継続していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		それぞれ特性もあるので個々に注意しながらそれぞれにあっわせた豊富で行う。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7			事業所内での行事が特にないので今後検討したい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	2	職員には周知している。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	定期的に避難苦mm運は行っている。同じクール曜日ではなく、その時々で色々な時間で行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	モニタリング時に確認をしている。状態はその都度変わるので、常に確認出来るようになっている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1		基本的に事業所内で食物の提供は行っていない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	定期的に行ったり、気付いた時に危険の内容に措置をしている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	4	その都度報告を行ったり、面談などの機会に伝えている。	伝え漏れがないようにチェックをきちんと行うようにする。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2	2	その場での状況報告と翌日の朝会での広告、用紙に記入をし、再発防止に努めている。	用紙を書くだけで話が伝わってこないこともあるので、どんな小さな怪我でも報告してもらうように伝える。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	3	厚労省や各個人で必要と思われることを引用して研修で伝えることが出来ている。	基本的には大きく内容は変わらないものだが、少しずつ内容をアップデートできるようにしていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7			今まではないことだが、今後あるかもしれないので全職員で話し、必要な時には該当する保護者さまともきちんと話して進める。	

事業所における自己評価総括表

公表	2025年3月20日		
○事業所名	てらびあぼけっと太田教室		
○保護者評価実施期間	2025年1月21日		～ 2025年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 25	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2025年1月21日		～ 2025年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広いホールでのびのびと体を動かすことが出来る。	活動の時間を設け、みんなでサーキットやカードゲーム、ルールのあるあそびを散り入れている。	みんなと同じものなかでもそれぞれが得意なものを強化しながら自信を持って取り組めるようにしていく。
2	来所から降所までの個別支援を行うことでお子さまの特性の合わせた無理のない適切な支援が出来る。	1人ひとりに合わせて話を聞くことや個々の特性への対応等が出来る。	「自分で出来た！」という小呂媚や達成感、成功体験をたくさん積み重ねて行くことで今後様々な場面で対応出来る力を身につける。
3	感染症や風邪などのご利用児への対応や引継ぎ。	電話やLINEでの対応となるが、園は休んでいるか症状はどれくらいかを教えてくださったりこちらもお聞きする部分があるが、難しい部分がある。	受診をしているか、園で何か流行しているものはないか等聞くようにし、職員にも伝達する。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日中仕事をしている保護者さまが多く、送迎希望のご家庭が増えている。	どうしても周防芸が難しいご家庭のみに限定はしている。	4月からは全体の流れを考えて、回りやすいコースで組み直した。
2	もうすぐ3年目を迎えるが、各年齢でのご利用の需要が増えている。	個々の発達状況に応じての支援計画、支援段階によって出て来る課題等に応じてその都度対応を変えて支援している。	ゆっくりではあるが、着実に結果が出ているものがたくさんあるので特性を生かしながら支援を続けていけるようにする。
3	翌日にはなるが、朝会で前日のご利用児さま1人ひとりの振り返りを行うことで、次回への継続的な支援に繋がっている。	全職員が1人ひとりのことを理解した上で関わりを持つことが出来る。	同じ支援を継続して行えるように引継ぎ等をしていく。